

東京都心身障害者対策協議会委員や鹿児島県社会福祉審議会委員、日本地域福祉学会理事等広範囲にわたり活動されてきたが、現在も朝日新聞東京厚生文化事業団評議員、東京都・千葉県・山梨県・静岡県・横浜市各社協の研究委員会委員長等に就任し、幅広く活躍されている。

主な著書

「障害者の心理・教育福祉」
「都市と学校の福祉」
「地域福祉論」
「南のくにのまちづくり」
「お父さん出番ですよ」など

福祉教育の視点

- 1) 人権や人間を尊重する人間を育てる。
- 2) 人間らしく生きるにはどうしたらよいだろう、という問題を共有する。
自立して生きていくために努力する。
より良く生きる
自分自身の努力目標
- 3) 相手を理解する。そして、自分自身をふりかえる。
相手の意志を聞いて相手の意志にそようする。相手の意志を尊重する。ワンパ
ターンの親切や親切のおし売りはおかしい。
- 4) 人間らしく心豊かに生きる力を養う。
どんな心が必要か発見する。
- 5) 自分が感じたことを仲間と共有する。
- 6) 体験を通して社会の仕組みの知識・技術を習得、理解する。
- 7) 社会の一員としての役割、自覚を育てる。

発達段階を考えながら、何を習得させるために福祉教育を行うのか、考えていた
だきたい。

いう目標のもとに行われた。登校班のグループで編成して3年目であるが、最初は戸惑いのあった個の活動も、リーダーを中心に協力し合って意欲的に取り組み、大きいごみ袋は高学年が、小さいごみ袋は低学年が持ち、互いに認め合い、思い合う関係が育ってきている。次第に互いの交流もできた。地域の方も温かいまなざしで、子供たちに声をかけてくださり、協力的である。この活動を通して地域の環境に目を向け、進んで環境美化に取り組むことの大切さやみんなで協力し合って活動することの楽しさ、大切さが浸透することを期待している。

5 成果と今後の課題

豊かな人生経験、直接体験された方の話は、子供たちへのインパクトも強く、直接心に響くので感動的な体験ができる。このような体験を通して、自ら学ぶ意欲を、そして、これらの人々とふれ合うことによって尊敬、畏敬、感謝、思いやりの心等が子供たちの心の中に育ってきている。また、学級活動・委員会活動・学校行事等に積極的に取り組んだことにより子供が主体的に活動の計画や実践に取り組もうとする姿が見え始めた。

本校では、これまでの研究から、福祉教育を特別何かしなければと身構えるのではなく、日々の教育活動の中で常に福祉の視点でみていくことが重要だと考えている。この考えを今後も継続していきたい。

また、更に、家庭や地域との連携を図り、その教育力の活用を充実させ、より自然な形で、「よりよく生きる」ことを基本とした福祉教育を実践し、地域に根ざした「福祉のこころ」を育てていきたい。

講演

「ともに生きることの大切さを 感じる、考える、体験する教育の実践」

講師

愛知みずほ大学人間科学部
教授 中嶋 充洋

講師紹介

中 嶋 充 洋(なかじま みつひろ)

昭和 7年 福岡県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。

昭和32年 東京都社会福祉協議会に入り、地域福祉部長、総務部長、事務局次長を歴任。

昭和53年 東京都社会事業学校講師、淑徳短期大学講師、日本社会事業大学講師等を兼務。

昭和60年 鹿児島経済大学社会学部教授に就任。

平成 5年 愛知みずほ大学人間科学部教授となり、現在に至る。

の演技が楽しみでしょうがないといった感じであった。そんな2年生を見て4年生も自然に「可愛い、愛らしい」という気持ちが湧いてきたようである。ペアで踊る場面もあり「私の相手は　ちゃんというのよ。」といった結びつきが生まれてきた。

運動会当日も、素晴らしい演技を見てくれた。このふれ合いを一つのきっかけとして次のステップへの交流につなげていきたいと考えている。

（3）家庭・地域の教育力の活用

子供も一人一人が思いやりのある心豊かな人間として育つことを目指し、学校、家庭、地域が 一体となって子供の教育に携わることは、福祉教育を充実していく上で重要なことである。そこで、本校では昨年度より地域の方々や保護者の方を招いて話を聞いたり、地域に出かけて行って話を聞き、指導を受けたりしている。

〈例：6年生 「土器、鎌倉街道」〉

本校の正面玄関にあるショーケースには、開校当時 年前（39年前），地域の土地開発の時に発掘された土器や化石等が陳列してある。当時、この土器を復元し保存した先生が同区内に住んでいらっしゃるので、学校にいらしていただき土器についての説明をしていただいた。子供たちは、今まで何気なく見ていたこれらの土器が、いかに意義のあるものかを知り、認識を新たにした。また、鎌倉時代の学区のことについての話では、学校の正門前の道路が、「いざ鎌倉へ」の三つの道の一つであったことを聞き、子供たちにとっては、改めて歴史と深い関わりのある自分たちの町を見つめ直すきっかけとなった。

（4）お年寄りとの交流

秋の運動会では、近所のお年寄りの方々を、毎年招待している。招待状を運営委員の児童が作成し、各クラスに呼びかけ、自分の祖父や祖母、または知り合いのお年寄りに渡してもらっている。また焼き物クラブが、「箸置き」をつくり、ひとつひとつ奇麗な包装紙で包み、ビニール袋にいれ、メッセージをそえてプレゼントしている。

当日は、朝、早くからお年寄りの方々が来てくださいました。

「お茶はいかがですか。」「プログラムをお持ちですか。」

などと子供たちは、普段使っていない言葉を使わなければならず神経も使ったようだが意気揚々と働いている様子でもあった。お年寄りから「ありがとう」と声を掛けられ照ながらもまんざらでもない表情を見せていた。お年寄りの方々も、子供たちの演技に一日中、声援を送ってくださいました。

（5）地域清掃活動

10月、清掃活動を通して地域の環境、自然に目をむけ地域の友達との交流を深めると

の建物が多いせいか、子供たちの転出入がとても多い。しかし、子供たちは、明るく元気でやさしく、素直なので、転入生はすぐに地域や学校になじみ、楽しく生活している。また一昨年から男女混合名簿を実施し、昨年から運動会の徒競走もタイム別の男女混合で走っている。そのせいか、高学年でも男女をさほど意識せず生活し気持ちもやさい。

しかし、反面自主的に考えたり判断したり行動したりする面が弱く、人からやってもらうことを望む子が多い

教科 迫徳、特別活動、学校行事等の様々な活動を通して、自立と連帯の心の育成を図り、受け身の活動から、自ら実践活動へと高めていき、温かい心の子、そして豊かな感性の子の育成をと、日々努力を重ねている。

4 実践の内容

今年度は、重点研究「児童理解」、研究主題「一人一人が目当てをもって生き生きと活動する学校生活を目指して」の中で福祉教育との関連を考慮して、実践に取り組んでいる。実践の活動の場として「教育課程」「家庭・学校・地域」「児童活動」の3部会を設け、主体性、協調性を培い、温かみのある心、豊かな感性をもた子の育成を目指し、実践活動の日常化に努めることが大切であると考えた。

（1）交換授業

「この子にもこんなよさがあったのか」と教師が子供の個性・能力を発見し対処するとき、子供は生き生きと活動する。

そこで、本年度、本校では一人一人の個性を大切に、子供のよさを引き出そう、少しでも多くの目で見つめることによって、児童理解の手立てに役立てようという発想から、1年から6年までクラスの垣根を外し、交換授業を実施している。

実施にあたり、事前に学年会での教材研究、クラスの特徴個々の児童の特性などを話し合い、事後処理についても観点を明確に定めて指導評価していきたいと考えた。

交換授業は、子供にとって、他の先生に教わるという新鮮味がある。「つぎは 先生に教わる。」と、とても楽しみにし、生き生きと授業に臨んでいる。子供にとっては他のクラスの先生とのふれ合い、教師にとっては他のクラスの子供とのふれ合いを通して、互いのよさを発見し、認め合うことは、学校全体の教育活動の中で福祉教育を充笑していく上でも重要なことである。

（2） 2年生と4年生の合同ダンス

今年度は、秋の運動会の種目として2年生、4年生の合同ダンスをとり入れた。二つの学年がうまく練習に入ることができるだろうか心配であったが、それは杞憂であった。

4年生は、下級生の前で張り切った面持ちで、しかも幾分緊張気味で練習に臨んでいた。それは上級生として頑張ろうとしている姿でもあった。2年生も張り切り、4年生と

福祉教育研修会

平成7年12月6日(水)
教育文化センター2階ホール

福祉教育実践推進センター校実践発表要旨

横浜市立西本郷小学校

1. 実践主題

実践主題

「福祉の心を育て、その実践化を目指す指導はどうあつたらよいか。」

2 実践のねらい

これまでの研究から本校では、福祉を、「互いの人格を認め合い共存をはかる」という広い意味でとらえ、福祉教育を「よりよく生きる力」を育てることとしてとらえ実践している。「よりよく生きる力」を育てるとは、児童の「自立」を図ることとともに、相互に立場を認め合い協力していこうとする「連帯」の心を育てることである。この自立と連帯の心を本校では「福祉の心」としてとらえ、この心、が実践へと広がることを強く期待している。そこで、本年度は、次の三つに視点を当てて実践していくことにした。

- (1) 一人一人が課題を持ち、意欲的に取り組んでいく中で喜びや満足感を味わわせるとともに、自己の学習に生きる基礎的基本的な知識や技能を習得する態度を育てる。
- (2) 話し合い活動を通して実践を積み重ねていく中で、よりよい学校生活を目指し、意欲的に活動する態度を育てる。地域の人々とのふれ合いを通して居住する地域に目をむけ、自然、環境を大切にし、思いやりの心をもって人々とかかわっていく態度を育てる。

3. 学区の特色、児童の実態

学校は根岸線の本郷台駅から歩いて10分の住宅地の中にある。鎌倉市と隣接した本校学区は、22年前、鉄道の開通とともに急速に土地開発が始まり、田園風景から一転して新興住宅地になった。しかし、学区内には、寺、神社、地蔵、道祖神、庚申塔、馬頭観音等の遺跡も数多く存在している。また、大雨の度に氾濫していた、いたち川も10年前から整備され、今では、川にはたくさんのコイが泳ぎ、「いたち川プロムナード」という名称の遊歩道となり住民の憩いの場となっている。

創立39周年をむかえ、子供たちの保護者に本校の卒業生という方がいらっしゃり、PTA活動を通して積極的に教育活動に協力してくださる。住宅は、マンションや社宅等